

《短報》

山口県初記録の貝類2種—カタマメマイマイ、ヒメヒラマキミズマイマイ—

増野和幸

豊田ホタルの里ミュージアム, 〒750-0441 山口県下関市豊田町大字中村 50-3

はじめに

山口県内には、「レッドリストやまぐち2019」が公表された時点で、陸産146種、淡水産38種、計184種の非海産貝類が生息しているとされる。この中では2015年から3年間かけて実施された改訂のための現地調査や過去の標本等の見直し作業が行われた。その中で新たに採集された種や誤同定のあった種も見出された。今回報告する2種はそうした作業の中で確認されたものである。標本は筆者のコレクション内にあったが、保存のために豊田ホタルの里ミュージアムに収める。

1. カタマメマイマイ *Lepidopisum conospira* (Pfeiffer, 1851)

カタマメマイマイ *Lepidopisum conospira* (Pfeiffer, 1851) はオナジマイマイ科に属する貝類である。本種は本州中央部以西・四国・九州に分布するが、産地が局限されるため報告例が少なく(東, 1982)、環境省の絶滅危惧Ⅱ類に指定されている(環境省, 2019)。山口県においてもその記録はなく、改訂のレッドリストにもあまりにも情報が少なく、リストアップされていない。

筆者は、改訂レッドリストに向けた再調査を、2017年4月30日(木)、山口市阿東蔵目喜銅の石灰岩の露頭ガレ場で行った。その際、山道沿道のクズ、ナンテン、クワクサ等の低木・草本類の生える場所を、リター採取をしながら陸貝調査を行った。この時、マメマイマイ様の小形で殻皮の剥がれ白化した貝殻1個体を採集した。後日、矢野重文氏(香川県)の同定により、本種であることが判明した。

採集個体は、殻が小形で殻径5.5mm、殻高6.2mm。球形をし、臍孔は小さい。殻表は摩耗して、本種の特徴である鱗片状彫刻は確認できなかった。同所的にヤマキサゴ、チクヤケマイマイ、クチマガリスナガイ、キビガイ、コシタカシタラガイなどが採集された。

本種の生息環境が「クズが優占しイネ科植物が多数生育する」(大谷ジャーメンウィリアムら, 2015) 場所であり、今回の林縁に沿った場所と類似している。今回は死殻1個体のみの採集であり、今後生貝を含め複数個体の採集に努めたい。



図1 山口県初記録となったカタマメマイマイとヒメヒラマキミズマイマイ  
1-3. カタマメマイマイ(山口市蔵目喜産); 4・5. ヒメヒラマキミズマイマイ(下関市蓋井島産)  
※Scale bar : 5mm.

2. ヒメヒラマキミズマイマイ *Gyraulus pulcher* (Mori, 1938)

ヒメヒラマキミズマイマイ *Gyraulus pulcher* (Mori, 1938) は、ヒラマキガイ属に属する円盤状の淡水性巻き貝である。このヒラマキミズマイマイ、トウキョウヒラマキガイ、ヒラマキガイモドキなどは、同様な環境

に生息する。今回、過去のヒラマキミズマイマイ等淡水産貝の標本見直しの中で、本種の混入に気付いた。過去のヒラマキミズマイマイの中に、著しく小形の個体の本種が見られた。同定は、矢野氏にお願いした。矢野氏によると「ヒラマキミズマイマイの幼貝ではないかという疑問を持たれることもあるが、ヒラマキミズマイマイの幼貝と比較すると、ヒラマキミズマイマイの幼貝は、幼貝ということで巻き数が少ないのに比べて、ヒメヒラマキミズマイマイは、小さくても成貝なので巻き数が多く識別は可能である」(矢野, 2001)。

山口県内での過去の記録をみると、岡藤 (1957) が秋吉台洞窟の堆積土中から記録している。しかし、氏が記述しているように「洞窟内の貝殻は石灰岩の保護により数十年経過したものがほとんどで死殻である」とあるように、氏が記録した個体は生貝ではなかったと考えられる。このため、現生種の生貝としての記録は、次の3地点が県初記録と言える。いずれの生息環境も水田脇の溝の水溜まりであった。なお、本種は環境省レッドリスト 2019 では絶滅危惧 IB, レッドリストやまぐち 2019 では、情報不足にリストアップされている。

- ・山口県美祢市大嶺町入見洞, 1957-V-19, 個数不明 (現個体未確認)
- ・山口県下関市蓋井島, 1988-XII-25, 2 個体
- ・山口県萩市川上白上, 1989-I-16, 10 個体
- ・山口県萩市相島, 1989-XI-16, 1 個体

## おわりに

現在、筆者は山口県内の陸・淡水産貝類の未調査地域の調査を継続実施している。県西部地域をスタートに、今後、瀬戸内海側、県東部へと進めていく予定である。過去の調査が、特定の山地や島嶼部、石灰岩地域、溪谷など局地的な調査が主になされてきた傾向がある。意外に県の中央部や都市部に存在する自然林の残る地域が取り残されているのが現状である。

最後に、種の同定及び適切な助言をいただいた日本貝類学会評議員 矢野重文氏に、記して感謝の意を表す。

## 引用文献

- 東 正雄 (1982) 原色日本陸産貝類図鑑. 保育社, 343pp.
- 環境省 (2019) 環境省レッドリスト 2019. <https://www.env.go.jp/press/files/jp/110615.pdf>
- 大谷ジャーメンウィリアム・石田末基・上島 励・中原ゆうじ・金尾滋史 (2015) カタマイマイを滋賀県米原市と甲良町にて確認. ちりぼたん, **45**(4): 242-246.
- 岡藤五郎 (1957) 山口県秋吉台石灰岩洞窟及びその附近産の貝類について (予報). 貝類学雑誌, **19**(3・4): 197-205.
- 矢野重文 (2001) 香川県産ヒラマキガイ属貝類の分類について. まいご, **9**: 11-14.
- 山口県 (2019) レッドリストやまぐち 2019. <https://pref.yamaguchi.lg.jp/ems/a15600/red/red.html>.